

2021年度（令和3年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

(1) 育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」(以下いっぽ)の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にあわせ、親子のひろばの利用方法を変更しながら開所する一年となった。利用人数の制限を設けたり、消毒のための時間を設けたり、感染対策を取りながら安全な交流の場を継続して提供した。子育て中の親子が孤立しないよう、感染が拡大した時期にはオンラインも積極的に活用しながら交流をうながす取り組みを工夫した。

区内の支援の場の状況が変動する中、受託している事業を連動させて最新の情報を収集・提供することができた。これにより情報を受ける側にも、発信する側にも、情報提供機能の周知が進み、内容をより充実させることにつながっている。

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

いっぽにて「気になる子のサロン」を開催し、母親同士が気軽に話すことができる場を提供した。いっぽが休館日である月曜日にひろばを開いておこなう「気になる子のサロン～ひろばであそぼう」を年2回開催し、気兼ねなく遊ばせることができたことと好評だった。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかわる事業

いっぽにて学生のボランティアや実習受入れ行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。感染対策のため他の施設での活動が難しくなると、ボランティア希望の問い合わせが増えた。子どもが多世代とふれあうことの大切さを考え、1日の受入れ人数を少なく設定するなど対策を行いながら積極的に受入れを行った。

2 事業内容

(1) 育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時 | 月～金曜日 午前9時30分～午後4時30分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分 |
| 実施場所 | みどりっこ親子の居場所はなまる |
| 従事者 | 2人/1日 |
| 対象 | 緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児） |
| 支出額 | 8,335,941円 |
| 事業実績 | <ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：3,105人（1,863人） 一日当たりの平均利用者数：12.5人（9.1人） 新規登録組数：184人（143組）*令和2年度より子ども単位の人数で集計 ()内数値は前年度実績 *前年度2か月休館期間あり <一時預かり> のべ預かり児童数：165人（157人） 総利用時間数：446.5時間（452時間） |

【1年間の報告】

- ・感染症拡大防止のため、ひろば内が密にならない組数(上限8組または16名)を利用定員とし、昼食時間を設けずに30分閉館しひろば内の消毒を行った。
- ・プログラムでは、利用者の要望をうけ、「あかちゃんたいむ」卒業後の次のステップとして「1歳児とあそぼう！」を開始した。体を動かす等のテーマを基に、参加される子供の様子により内容を変化させ好評である(2・3月中止)。赤ちゃんが安心して過ごせる時間帯「あかちゃんたいむ(あかちゃんと楽しもう!)」は赤ちゃん教室などが休止になり、外へ出るきっかけをなくした親子の参加が多かった。例年人気の幼稚園選びについて先輩ママと情報交換ができるプログラムをオンラインのみで開催したが参加は少なかった。「マタニティタイム」は参加された方は出産後のひろば利用につながっている(2・3月中止)。参加の多いプログラムには人数制限を設け予約制にした。

- ・利用者より発達に関する不安を聴く機会が増えていることもあり、療育センターの職員によるスタッフに向けた研修を2月に行った。
- ・一時預かりは4月のみ少なくその後は変動はあるものの、利用者が途切れる事はなかった。年齢別では0歳児、1歳児が多く、理由には通院、リフレッシュが多かった。コロナ対策のため、現在もひろばでの食事はできないが2020年度と同じく、昼食が必要なお子さんを預かる場合は、別室にて対応をしている。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぼ」の運営

ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

| | |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時 | 火～土曜日 午前9時～午後5時 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぼ |
| 従事者 | 7人/1日 |
| 対象 | 緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人 |
| 支出額 | 33,487,003円 |
| 事業実績 | 年間利用者数(大人・子ども): 18,238人(13,236人) 一日当たりの平均利用者数: 74.7人(65.9人) |
| ()内数値は前年度実績 | 累計登録者数(子ども): 4,334人(4,547人) 令和3年度新規登録者数(子ども): 662人(549人) |
| *前年度2か月休館期間あり | 新規ボランティア登録者9人(10人) 年間ボランティアのべ活動者数 426人(314人) 利用者支援事業相談件数 319件(249件) |

【1年間の報告】

1. 継続した親子の居場所の提供

- ・感染が拡大した時期は、対面で行っていたプログラムをオンラインに切り替えるなどして、外出を控える子育て中の親子が交流できる場を提供した。
- ・ママボランティアの活動を整理し直した。ボランティア活動カレンダーを作り、活動内容を分かりやすくして登録者に案内するようにした。リユース品の仕分けや、まちライブラリー、公園遊びでの見守りなど活躍の機会も増えた。

2. 多様な養育者に向けた取組み

- ・ひとり親サロンの実施、緑区社協フードドライブの品物受渡し場所としての利用、リユース品の提供をとおした様々な世帯のひろば利用など、多様な養育者が利用できる機会を作った。
- ・ろうの利用者が中心となり進める手話を使った交流の場を継続して行っている。その取組から派生した子どもが手話に親しむ場も定期的に開催した。実施に当たっては参加者同士手話でコミュニケーションをとりながら企画を進めるなど、利用者が活躍できる場となっている。
- ・みどり国際交流ラウンジの地域連携事業として、親子の国際交流の取組みをおこなった。いっぼにボランティア登録していた利用者とともに企画を考え、公園遊びとオンラインおしゃべり会を実施した。
- ・利用者支援事業では、電話や個別の相談件数も増えた。新型コロナウイルス感染に関連した相談もあるなど、幅広い内容の相談に対応している。

3. 区に一つしかない拠点として、区内全域に向けた取組み

- ・出張の公園遊びを企画し地域に出向いた(15箇所で開催)。実施に当たっては、出向く地域にある施設や支援者(地域ケアプラザ、保育園、親子のひろば、主任児童委員など)に事前に声掛けを行い、周知や参加の協力を依頼するなどつながりを持ちながらすすめた。公園遊び当日も、各地区の施設等からのべ10名以上の参加があり、関係を深めることができた。雨天や感染対策で中止になってしまった場所もあったので、引き続き2022年度の取組みにつなげていきたい。
- ・区内の子育て支援者に向けたメールマガジンの発行を始めた。支援者向けの講座等の情報提供を中心に、いっぼが地域に出向く公園あそびへの参加の声掛けなども行った。連絡会等がなくなり顔を合わせる機会が減ってしまった中で、つながりが持てるよう工夫した。
- ・情報発信の一つとして、2020年度よりインスタグラムを開設し、ひろばやプログラムの様子、地域の情報など発信している。妊娠期の人や、まだいっぼを利用していない人からも、インスタグラムを見ているとの声を聞く機会もあり、今後も効果的に活用していきたい。

4. 子育て世代と地域をつなぐ取組み

- ・年度の初めに、区役所で開催されている様々な定例会(連合自治会、民生委員児童委員、主任児童委員、こんにちは赤ちゃん訪問員、地域ケアプラザ所長会、小学校校長会、放課後キッズクラ

ブ等)に、施設長、子育てパートナー、子育てサポートコーディネーターが出向き、事業の紹介を行った。新たに開始する地域に出向く公園遊びの取組みについての協力の依頼も行った。

- ・地域に開かれたいっぽをめざし、建物横の敷地内通路を、親子が過ごせるスペースとして活用することを始めた。まちライブラリー、畑、砂場など、外から見えるスペースで親子が過ごす時間が増え、建物の前を通る地域の人に施設を理解してもらうことにつながった。

イ。「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

| | |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時 | 火～土曜日 午前9時～午後5時 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぽ |
| 従事者 | 3人/1日 |
| 対象 | 横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人 |
| 支出額 | 9,162,592円 |
| 事業実績 ()内数値は前年度実績 | <p>会員数：利用会員 737人 (663人) 提供両方会員 220人 (224人) 令和3年度入会者数：利用会員 231人 (143人) 提供両方会員 21人 (10人) コーディネート件数：189件 (139件) 実働会員数：利用会員のべ 733人 (572人) 提供・両方会員のべ 590人 (510人) 活動件数：4,553件 (3,497件) 入会説明会：38回実施 191人参加 〈うち利用会員 177人・提供・両方会員 14人〉 (24回 125人) 個別説明：83人参加〈利用会員 77人 提供・両方会員 6人〉 (64人) フォローアップ研修：2/15 コロナ感染症拡大のため中止 交流会：6/22 8人参加 子育てサポート通信：3回発行 「いっぽ保育隊」：活動件数 51件 のべ活動者 66人 保育子ども 224人</p> |

【1年間の報告】

- ・2021年4月より本部が横浜市社会福祉協議会から横浜市子ども青少年局に移管された。会員管理など区支部の業務が増えたが、局と18区支部で協議しながら業務の見直しを行った。また、区支部として利用者が利用しやすい制度になるよう会員登録時の流れなど工夫した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大で、身近な人からのサポートを受けることが改めて見直されたのか、入会説明会の参加者、入会者数ともコロナ前を上回る結果となった。利用したいというニーズは増えたが、それに応じる提供会員は高齢化が進み、コロナの影響で活動を控える会員もいて、コーディネートの難しさを感じる一年だったがコーディネーター間で相談しながら進めることができた。
- ・配慮が必要な会員への対応は、子育てパートナーやひろばスタッフ、区とも共有相談しながら行った。
- ・広報緑区版で提供会員の募集をテーマに事業の周知を行った。また周知する先を検討し、小学校1～3年生の保護者、小学校入学予定児童の保護者等2回にわたって事業周知のチラシの配布を行った。事業への問い合わせが増えて入会説明会への参加、入会、サポート利用につながった。
- ・提供会員予定者研修会は開催することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大のためボランティア活動自体を控える状況もあり、提供会員への勧誘を積極的に行うことが難しかった。
- ・地域ケアプラザ各所で出張説明会を開催したが、参加者が少なく周辺住民への周知等に課題が残った。2022年度は、周知方法、周知先等ケアプラザのコーディネーターに相談しながらより効果的に周知を進めていきたい。

③子育てに関する情報の発信・提供

| | |
|------|--------------------|
| 実施日時 | 通年 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぽ |
| 従事者 | 4人 |
| 対象 | 緑区および近隣の未就学児とその保護者 |
| 支出額 | 1,229,332円 |

| | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業実績 | 『みどりっ子カレンダー』:毎月 1000 部発行、掲載園 27 園、配布先 49 か所 『みどりっこひろば』:随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン:毎月発行 526 人登録(前年度 476 人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【1年間の報告】

- ・区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、保育園 22 園、幼稚園 5 園の情報を掲載している。毎月発行しているため、最新の状況の提供につとめた。
- ・緑区の子育て情報サイト『みどりっこひろば』では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため流動的になっていたイベントや子育てサロンの開催状況の確認のため、利用者だけでなく支援者からも利用される機会が増えたと感じている。最新の情報が提供できるよう、情報収集に力をいれた。2020 年に減少した「みどりっこひろば」メルマガ登録者数も、増加した。
- ・緑区が発行する『みどり子育て応援ガイドブック』の改訂版の編集を 2021 年度も継続して行った。

④集団出張保育

| | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時 | 通年 |
| 実施場所 | 霧の里ほか |
| 従事者 | 登録スタッフ 30 人 |
| 対象 | 緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども |
| 支出額 | 15,464 円 |
| 事業実績 | 定期託児：なし 出張保育：1 回実施、保育した子ども 1 人、スタッフ 1 人 (前年度 7 回 保育子どものべ 10 人 スタッフのべ 13 人) |

【1年間の報告】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等の開催が減っていることもあり、託児の依頼は 1 件のみだった。スポーツセンター託児付き定期教室も再開されなかった。
- ・かながわアートホール（保土ヶ谷区）での木村真紀さんのコンサート時の出演者のお子さんの託児を行った。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

| | |
|------|-------------------------|
| 実施日時 | 通年 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぽほか |
| 従事者 | 3 人 |
| 対象 | 緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども |
| 支出額 | 185,374 円 |

【1年間の報告】

- ・緑区こども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止の期間があり、年間で中山会場 6 回、長津田会場 5 回の実施となった。
- ・様々な団体とのつながり持てるよう参加している地域の連絡会等も中止や書面開催が多く、直接顔を合わせての関係づくりが難しい状況にあった。継続したつながりが保てるよう、対面の会議には積極的に参加した。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

「緑区地域施設間連携会議」

「緑区要保護児童対策地域協議会」いっぽ、はなまるとともに参加

「緑区セイフティネット会議」

「十日市場施設間連携会議」

「緑区読書活動推進連絡会」

「緑区防災ネットワーク運営委員会」

「横浜市バリアフリー検討協議会緑区支部」

「緑区市民活動支援センター運営委員会」(運営委員 木村真佐子)

「緑区国際交流ラウンジ」(運営法人理事 松浦千恵)

「緑区地域自立支援協議会こども支援部会」
「みどり障がい児者ネットワーク」
「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」
「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
「十日市場自治会」特別会員
「新治西部地区社会福祉協議会」会員

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

| | |
|------|------------------------------------------------------------|
| 実施日時 | 通年 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぽ |
| 従事者 | 4人 |
| 対象 | 緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人 |
| 支出額 | 30,780円 |
| 事業実績 | 気になる子のサロン 年間12回実施131人(大人70人・子ども61人)参加 (前年度10回実施・106人参加) |

【1年間の報告】

- ・いっぽにて「気になる子のサロン」を実施した。療育センターの職員が定期的に参加してくれることになり、参加者が直接質問や相談ができるようになった。また、いっぽ休館日の月曜日にひろばを開放する「ひろばであそぼう」を年2回開催した。子どもたちはひろばを広く使い、思い思いの場所でのびのびと遊び、親同士は集中して話ができる場になった。
- ・はなまるでのサロンが休止していたが、中山地区でのサロン再開を望む声もあり、2022年度中山地域ケアプラザとの共催で、サロンを開催することになった。その準備のため、協力してくれる先輩ママへの声掛けなど行った。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

| | |
|------|-------------------------------------------------|
| 実施日時 | 通年 |
| 実施場所 | 緑区地域子育て支援拠点いっぽほか |
| 従事者 | 3人 |
| 対象 | 地域の中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者 |
| 支出額 | 0円(主にいっぽの事業の中で行った) |
| 事業実績 | 高校生ボランティア のべ2人 大学生ボランティア のべ66人 大学等実習生受入れ 22人 |

【1年間の報告】

- ・2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、近隣中学校のボランティア活動や職場体験は中止となった。十日市場中学校1年生を対象とした職業講話に出向く機会が得られたので、子育て支援拠点や子育て期の親の様子について伝えることができた。
- ・看護学校(横浜実践看護専門学校)の母性看護学実習や、NPOインターンシップの受入れを再開することができた。感染対策を取りながらの受入れで、時間や日数など一部短くなってしまったが、親子との交流から、それぞれの学びにつなげることができた。子どもが親以外の人と関わる機会が減っている中で、親からも交流を喜ぶ声を聞くことができた。

2021年度(令和3年度) 事業費合計 52,446,486円